



## 編集後記

私は昨年から環境報告書作成ワーキンググループの主査を務めておりますが、まず、今年の東工大環境報告書作成に携わった皆様に心より感謝いたします。毎年、環境月間特別講演会も本ワーキンググループで主催させていただいており、その講演を通して、人間活動が地球温暖化を促進させていることは科学的にも明らかで、カーボンニュートラルの取り組みは大変に重要であることがわかりました。

私は生命科学者ですので、旅行に行く度にその場所に生息している生物に興味を持ち、また、地球の自然環境を愛してきました。今年の報告書の表紙の写真は、新型コロナウイルス感染症パンデミック前に訪れたハワイ島プルナウ黒砂海岸でアオウミガメが上陸してきたときの写真です。表紙の写真ですので、ウミガメが主役なのですが、今回の話題にしたいのはこの海岸の黒砂です。コナ空港が黒い溶岩塊の上にありますように、ハワイ島はいまだに黒い溶岩の塊の島であることは訪れるとわかります。この黒い溶岩の塊が砕けて砂になり、このような黒砂海岸になったと思われます。また、2021年10月に小笠原諸島の海底火山が噴火して発生した黒い軽石が沖縄をはじめ日本列島沿岸に押し寄せてきたことが報道されたのを覚えておいででしょうか。この黒い軽石により船舶の運行などに影響が出て問題になりました。観光業の面から、白砂ビーチがこの黒い軽石で埋め尽くされたら景観がどうなるかも心配されていましたが、私個人はハワイ島の黒砂のようでも悪くないかなとは思いました。しかし、つい先日、沖縄を訪問した時には、軽石が海面に浮いていることはなく、ビーチには少し残っている状況でした（写真）。黒砂海岸のように砂浜全面が真っ黒ではないので、現時点では美しくない感じではありますが、黒い軽石は指でつまむと簡単に砕けてしまうので、以前の白っぽい砂と一緒にになって馴染んでいくものと思われます。それも個性なのかなと思います。

実は、この編集後記紙面では、海洋を漂うマイクロプラスチックを集めて顕微鏡写真をお見せしようと計画したのですが、ちょっと難しいようでした。ウミガメなどがポリ袋を食べてしまったということも報告されていますが、プラスチックも海洋中で砕けてマイクロメートルレベルにまで小さくなっていくようです。顕微鏡ではないと見えないくらいに小さくなったプラスチックを生物（人間も）が摂取していると言われていいます。このマイクロプラスチックの生物や地球への影響に関しては、今後のワーキンググループの宿題とさせていただきます。



2022年9月  
環境報告書2022作成ワーキンググループ

主査 田川 陽一

「東京工業大学 環境報告書2022」は、以下のQRからも詳細をご覧ください。  
ダイジェスト英語版は、11月より公開いたしますので併せてご覧いただければ幸いです。

環境報告書2022



環境報告書2022ダイジェスト



環境報告書2022ダイジェスト英文

